

事業実績シート

1 事業の概要

協会事業名	<input type="checkbox"/> コミュニティ活性化支援事業 <input type="checkbox"/> 定住促進事業 <input checked="" type="checkbox"/> 地域特産品需要拡大支援事業 <input type="checkbox"/> 国際交流支援事業 <input type="checkbox"/> 長崎県防災航空隊常駐化支援事業		
自治体(団体)事業名	高来名水コンニャクブランド化推進事業		
所管局部課	自治体(団体)名	所管部・課名	担当者名
	諫早市	農林水産部農業振興課	中山 亜紀
連絡先(TEL)	0957(22)9143(直通)		
事業期間	開始年	平成25年度～(2年目)	
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他 [          ]		
実施期間	(開始日)平成26年7月9日		(完了日)平成27年3月31日
委託した場合の委託内容	委託先機関名	担当者名	連絡先(TEL)
	(委託内容)		
助成事業の目的 ※住民視点を踏まえて記載してください。	対象(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)	
	高来町黒新田地区・善住寺地区で生産、加工されているこんにゃく	名水で有名な高来町で、農家が手づくりする生芋100%のこんにゃくであることので「高来名水こんにゃく」の付加価値を高め、消費拡大や販路開拓を図り、地域活性化につなげる。	
助成事業の具体的内容 ※事業をまったく知らない人でも、事業の実施内容や実施方法の概要が分かるように入力してください。	高来名水コンニャク研究会の事業費のうち、95%以内の額を支援する。 (26年度事業費 425,292 円のうち、市補助金 400,000 円) <b>【高来名水コンニャク研究会概要】</b> ○所在地：諫早市高来町黒新田96番地          ○会 長：山田 馨 ○設 立：平成24年 ○事業内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こんにゃく芋の栽培に取り組んだ。</li> <li>・ 加工に必要な機材を導入するとともに、加工研修やこんにゃく製造会社の視察研修等を行い、加工技術の向上を図った。</li> <li>・ ブランドロゴを決め、幟やはっぴ等のグッズや商品シールなどを作り、地域のイベントに積極的に出店するなどして販売促進を図った。</li> </ul>		
事業開始の背景、これまでの経緯及び現状	(事業開始の背景)		
	高来町黒新田地区では、自生しているこんにゃく芋を使って各家庭で自家用としてこんにゃくの加工をしていたが、そのこんにゃくで地域活性化を図ろうと平成24年に高来名水コンニャク研究会が設立された。平成24年度は、諫早市ビタミンプロジェクト事業によって、イベント即売などに取り組んだが、平成25年度から、同じく高来町の善住寺コンニャク生産組合も研究会に加入し、市のブランド化推進事業で本格的に支援することとなった。		
事業開始の背景、これまでの経緯及び現状	(経緯・現状)		
	黒新田地区は、こんにゃく芋を自ら栽培し加工していたが、主に自家用だったため特定の売り先を持っていなかった。善住寺地区は、生産組合として加工所を持ち特定の売り先も数件あるが、こんにゃく芋の栽培を行っておらず、生産コストの高さが問題となっていた。 昨年度事業により、黒新田グループは特定の売り先を1件開拓し、善住寺生産組合は、栽培に本格的に取り組むこととなった。 今年度は、黒新田グループは、地域イベントに積極的に参加して販売枚数を増やすとともに、知名度向上に努めた。また、黒新田グループ・善住寺生産組合ともに、栽培に取り組んだものの、夏場の長雨等が影響し思うように収穫できなかった。来年度は、さらに栽培面積を増やして取り組むこととなった。		

## 事業実績シート

### 2 実績結果

事業費の推移		前々年度決算	前年度決算	当該年度決算
事業費（円）		0	500,000	400,000
(財源内訳)	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	市町振興共同事業助成金	0	250,000	200,000
	一般財源	0	250,000	200,000

  

指標名		指標設定の考え方	単位	区分	前々年度	前年度	当該年度
成果(活動)指標	① 研究会でのこんにゃく販売数	高来名水コンニャクによる地域活性化、農家所得向上	丁	目標	—	4,500	5,000
				実績	—	4,500	5,200
			目標達成率(%)	—	100%	104%	
② 研究会でのこんにゃく栽培面積	生産コスト減による収益増加、新たな産物による地域活性化		a	目標	—	10	15
				実績	—	11	15
			目標達成率(%)	—	110%	100%	

### 3 事業の振り返り

必要性の点検	(1) 公共性評価		必需 (+)  私益 (-)      公益 (+) 選択 (-)
	(公益性) <input type="checkbox"/> 広く社会に利益をもたらすサービス <input type="checkbox"/> 特定の個人又は集団のためのサービス <input checked="" type="checkbox"/> 上記以外の中間的なサービス	(必需性) <input type="checkbox"/> 住民生活に必要不可欠なサービス <input type="checkbox"/> 住民生活に必要不可欠ではないサービス <input checked="" type="checkbox"/> 上記以外の中間的なサービス	
	(2) 行政関与の妥当性評価 妥当性低い      妥当性高い (-)      0      (+) 	(3) 廃止又は休止した場合の影響 (影響内容、程度等) 研究会としての収益はまだ少ないが、2年間の支援で活動の道筋をつけたため、金銭的な支援は終了することができる。 しかし、担い手が高齢者なので、事業を完全に終了させると活動が停滞する恐れもあるため、人的支援は必要と考える。	

## 事業実績シート

### 4 有効性の点検、効率性の点検

有効性の点検	(1) 成果（活動）指標の達成状況		（左記結果となった理由）	
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果（活動）指標の実績値は、目標をほぼ達成した <input type="checkbox"/> 成果（活動）指標の実績値は、目標を下回った			
	(2) 成果（活動）指標を向上させるため、事業内容や実施方法を工夫する余地			
	<input type="checkbox"/> 工夫の余地はない <input checked="" type="checkbox"/> 工夫の余地がある		（工夫の内容・工夫の余地がない理由）	
	実施予定 期 日	数年後	今後はさらに、こんにゃく芋の栽培技術を高めて栽培面積を広げ、自前で材料を調達できるようにするとともに販路開拓もできれば、収益が上がって活動も軌道に乗る。	
(3) 類似事業との統合		（統合可能性のある類似事業名、統合不可能な場合はその理由）		
<input type="checkbox"/> 類似する事業と統合可能 <input type="checkbox"/> 類似する事業はあるが、統合不可能 <input checked="" type="checkbox"/> 類似する事業はない				
効率性の点検	(1) 民間委託化等の妥当性評価		（具体的内容）	
	<input type="checkbox"/> 民間委託化や非常勤化等を検討すべき業務がある <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託化や非常勤化等を検討すべき業務はない		補助金を交付する業務であるため。	
(2) 受益者負担の適正化等による歳入確保		（判断理由と可能な歳入確保内容）		
<input type="checkbox"/> 既に受益者負担の見直し等で歳入確保を実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担の見直し等で歳入確保は可能 <input type="checkbox"/> 受益者負担の見直し等での歳入確保は困難		こんにゃく販売で得た利益を、研究会活動費に充てることができる。		

### 5 今後の方向性

必要性の点検から	<input type="checkbox"/> 事業休止	<input type="checkbox"/> 事業廃止	<input type="checkbox"/> 民営	<input checked="" type="checkbox"/> 事業終了（完了）	<input type="checkbox"/> 現状維持
実施（予定）時期				平成 27 年 3 月 31 日	
有効性の点検から	<input type="checkbox"/> サービス水準低下	<input type="checkbox"/> サービス水準向上	<input type="checkbox"/> 類似事業との統合		<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
実施予定時期					
効率性の点検から	<input type="checkbox"/> 委託化	<input type="checkbox"/> 非常勤化	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担の見直し	<input type="checkbox"/> 広告料収入等の新たな歳入の確保	<input type="checkbox"/> 現状維持
実施予定時期			平成 27 年 4 月～		
具体的内容	「ブランド化事業」としては今年度で終了することとし、今後 1～2 年間は人的支援をしながら、研究会の活動を見守ることとする。				